

The background of the slide is a collage of three images. The top left shows a group of people's hands holding glasses of beer around a table with food. The top right shows a person in a lab coat and blue gloves using a pipette to transfer liquid into test tubes. The bottom center shows a white surface with several yellow capsules, green leaves, and a small bowl of brown powder. The KIRIN logo is at the top center.

KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリングroup 2024年度12月期 第3四半期決算

2024年11月7日

- キリンホールディングスの高岡です。よろしくお願いいたします。
- それでは早速、第3四半期決算についてご説明いたします。まず、2ページをご覧ください。

▶ 売上収益及び事業利益ともに、前年を大きく上回って進捗している。

(億円)	24年3Q実績	23年3Q実績	増減	%
売上収益	16,997	15,479	1,518	9.8%
事業利益 *	1,620	1,415	205	14.5%
税引前四半期利益	1,560	1,424	136	9.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	793	839	-46	-5.5%
定量実績	24年3Q実績	23年3Q実績	増減	%
平準化EPS **	135円	134円	1円	0.7%

- ▶ 第3四半期の連結売上収益と事業利益は海外事業の好調継続と為替影響等により、前年を上回って推移
- ▶ 税引前四半期利益は、FANCLの連結化に伴う段階取得差損約180億円***が発生したが、連結事業利益の増加等により、増益
- ▶ 親会社所有者四半期利益は、海外事業会社の資本構成見直しに伴う課税所得の発生等による法人所得税費用の増加により、減益
- ▶ 平準化EPSは前年並み

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

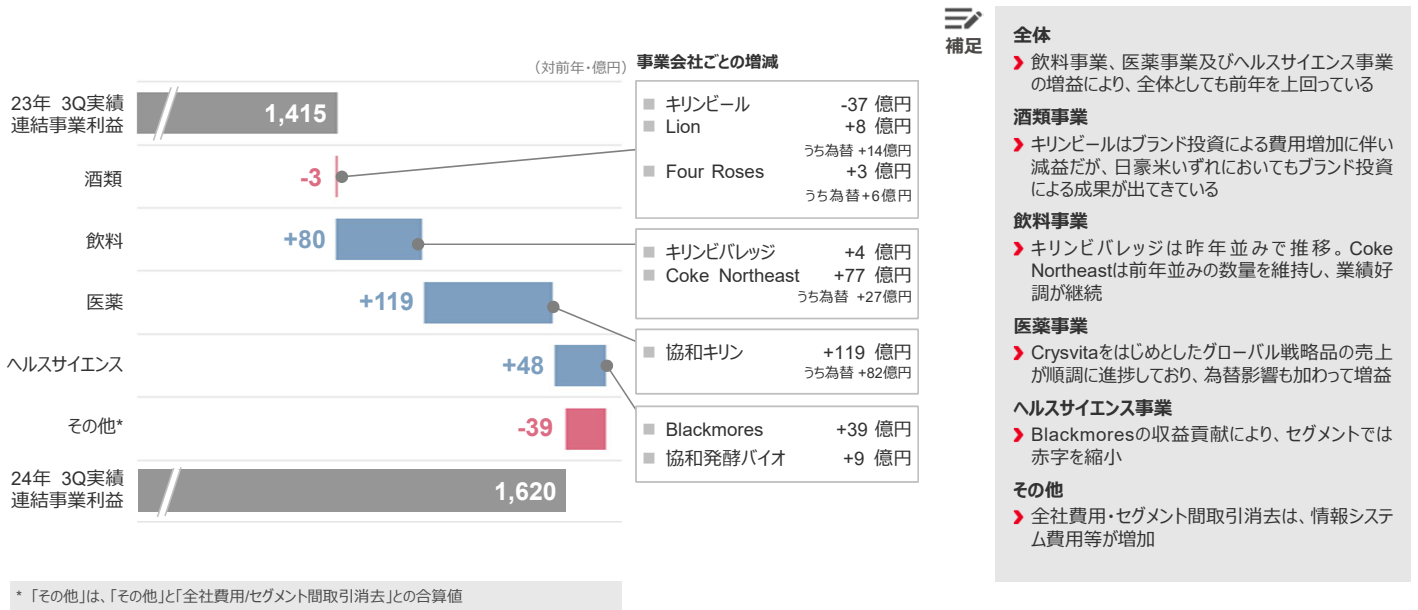
** 明細はp.11参照

*** 持分法適用関連会社であったFANCLを連結子会社化したことに伴い、会計上、既存持分を公正価値で再評価する必要があり、当該再評価した結果、その他の営業費用に段階取得差損として計上

- 第3四半期決算の連結売上収益は、対前年プラス9.8%の1兆6,997億円、連結事業利益については、前年を大きく上回る1,620億円となりました。
- 税引前四半期利益は、FANCLの連結化に伴う段階取得差損約180億円の発生がありました。連結事業利益の増加等により、増益となりました。
- 親会社の所有者に帰属する四半期利益については、2Qの年間見通しでご説明した子会社の資本構成見直しなどに伴う法人所得税費用の増加により減益となりました。
- 平準化EPSについては、事業利益の増加はありましたが、先ほどの税金費用の増加などにより、前年並みとなっております。

2024年度 3Q実績：連結事業利益 セグメント別損益増減

▶ キリンビールのブランド投資増加はあるが、Coke Northeastと協和キリンの増益で全体として大きく増益。



- 3ページは、セグメント別の事業利益増減となります。
- Coke Northeastや協和キリンの大幅増益やBlackmoresの収益寄与により、キリンビールのブランド投資を相殺し、大幅な増益となっております。

2024年度 業績予想修正

▶ FANCLの連結子会社化に伴い計上する段階取得差損により、業績予想を修正する。

通期業績予想

(億円)	24年通期 (修正あり)	23年通期 (実績)	対前年 増減	%	24年通期 (従来予想)	修正額	%
売上収益	23,000	21,344	1,656	7.8%	23,000	—	—
事業利益	2,020	2,015	5	0.3%	2,020	—	—
税引前利益	1,980	1,970	10	0.5%	2,160	-180	-8.3%
親会社の所有者 当期利益	960	1,127	-167	-14.8%	1,140	-180	-15.8%

▶ FANCL業績の4Qからの取り込みを含め、全体の増減益要因に鑑みて、現時点での事業利益目標は変更しない。着実に目標の事業利益を達成し、アップサイドを目指す

▶ 3Qで計上した段階取得差損により、税引前利益と親会社所有者当期利益を下方修正する

定量目標

	24年通期 (修正あり)	23年通期 (実績)	対前年 増減	24年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	5.6%	8.0%	—	6.8%	—
平準化EPS	162円	177円	-15円	162円	—

▶ 上記の修正に伴い、ROICは下がる見込みである。平準化EPSに影響はないため配当予想に変更はない

- 4ページをご覧ください。
- 連結の通期業績予想ですが、前のページでお伝えした段階取得差損約180億円のみを修正し、それ以外は変更を行いません。
- 事業利益については、この10月からFANCLのPLを取り込む予定ですが、協和キリンが対前年では今年度取得したOrchardのR&D費用や販売費が上乗せになることや、KHK4083の臨床試験がピークを迎えていること、またLionの豪州市場環境が最盛期になっても改善を見られないことなどの損要因を織り込んでいます。
- 現時点では、年初に設定した事業利益2020億達成を確実なものとし、可能な限り、上振れることを目指していきます。

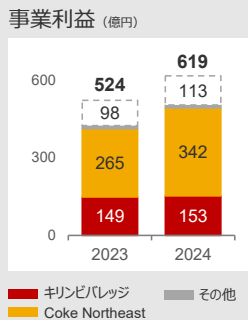
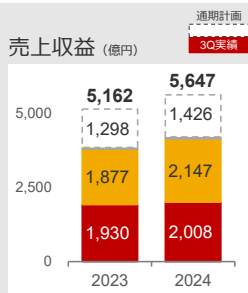


3Q実績と今後の取り組み

市場として数量減少トレンドが継続する中、日豪米では主力ブランドのブランド力を高めて市場をアウトパフォーム。今後も市場の数量成長は見込めないため、日豪米で収益性向上に向けた取り組みを行う。

3Q実績と今期見通し		来期以降の取り組み
日本  豪州  北米 	● 昨年の仮需反動もありエコノミーカテゴリーは大幅に減少するも、狭義ビールとRTDの数量増及び価格改定効果により限界利益は増加 ● 「一番搾り」「晴れ風」などの狭義ビールとRTDへのブランド育成を継続し、通期計画の達成を目指す ● 継続したブランド投資の成果により市場をアウトパフォーム。事業利益は計画並みに進捗しているが、豪州市場悪化は依然として継続 ● 健康志向の高まりに応える商品群の展開によって、最盛期に向けて市場縮小の影響を軽減していく ● 市場アウトパフォームは継続するも市場縮小の影響を受けて増収幅が縮小。事業利益も計画をバイナンド ● New Belgium BrewingのAsheville醸造所がハリケーンにより被災。業績に与える影響は精査中	● 2026年の酒税一本化後のビール類の各ブランドが獲得したいポジショニングをよりクリアにすることで、各種施策を打つ ● 狭義ビールを中心に伸長を図る他、各カテゴリーのミックス改善により収益改善に取り組んでいく ● 経済環境とビール及びRTD市場に注視しながらブランド投資を継続するとともに、収益性の向上につながる構造改革を実行していく ● 経済環境とビール及びRTD市場に注視しながら「Voodoo Ranger」を育成しながら安定的な収益確保に取り組む。RTDでは「Voodoo Hard Charged Tea」のRTD市場での地位を強固にしていく

- 5ページ以降で各セグメントについてご説明します。まず、酒類事業です。
- 酒類事業計は、各社の着実な値上げ等により約270億円の増収となっておりますが、事業利益についてはほぼ前年並みとなっております。
- キリンビールについては、昨年の酒税改正前の仮需の反動によりエコノミーカテゴリーの数量減がありましたが、一番搾りや晴れ風、氷結などの貢献によって、狭義のビールやRTDのカテゴリーで市場をアウトパフォームしております。
- 今後も、2年後に控える酒税一本化後に、我々が保有する各ブランドがどのようなポジショニングを得たいかをより明確にイメージしながら、ブランド育成をおこなっていきます。
- Lion豪州では、継続したブランド育成により、市場のアウトパフォームが継続しています。主力のブランド群から、ULTRAという健康志向の高まりに応える商品を発売し、市場縮小の影響を軽減していきます。
- 市場の消費のモメンタムの改善の兆しは大きくは見られませんが、ブランド投資と収益性を改善するための施策を継続して打っていきます
- 北米クラフトは、引き続き市場をアウトパフォームしていることに変わりはないですが、市場の縮小の影響は受けてきており、増収幅が減少してきております。
- なお、New Belgium Brewingのノースカロライナの醸造所が9月の下旬にハリケーンにより被災し、稼働ができない状況が継続しております。業績に与える影響は現在精査中です。

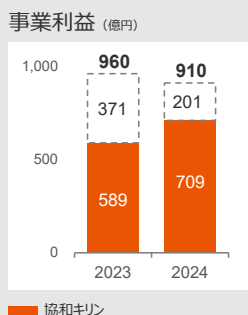


3Q実績と今後の取り組み

日本市場は厳しい競争が継続。より一層、ヘルスサイエンス飲料による収益性向上を推進する。Coke Northeastは、価格マネジメントとオペレーションの効率化により好業績を生み出している。今後も安定的な利益創出を目指す。

	3Q実績と今期見通し	来期以降の取り組み
 キリンビバレッジ	- 販売費等のコストコントロールによって事業利益は計画通りに進捗 - 緑茶市場のコモディティ化の継続により、通期計画の達成はチャレンジング	- 収益性改善に向けた選択と集中を加速し、高収益ポートフォリオを拡大する - 引き続き、差別化戦略としてヘルスサイエンス飲料の売上収益をさらに伸ばす
 Coke Northeast	- 数量は前年並みも、効果的な価格マネジメントによって売上収益は増加。ミックス改善も継続している - コストマネジメントも継続し、事業利益は計画を上回るペースで進捗。通期計画の超過を目指す	今後も安定的な利益を創出するため、販売数量と価格のバランスをコントロールするとともに、引き続きオペレーションの効率改善に取り組む

- 6ページをご覧ください。
- 飲料事業計は、第3四半期も継続して増収増益です。
- キリンビバレッジは、利益の進捗はおおむね想定通りですが、緑茶市場のコモディティ化の継続により苦しい状況は変わっていません。
- Coke Northeastは、価格マネジメントを引き続き効果的に行っており、収益の伸びが継続しております。
- 今後も高い利益率を維持し、安定的な利益創出に取り組んでいきます。

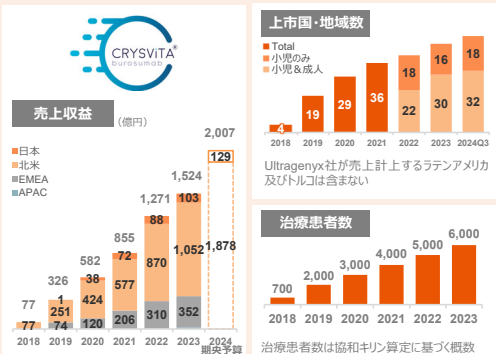


3Q実績と今後の取り組み

グローバル戦略品が堅調に推移。開発を進めるKHK4083/ AMG 451(rocatinlimab)の1本目のPh3試験は設定した主要評価項目・副次評価項目を達成。

グローバル戦略品

- エビデンスに基づくプロモーション等の活動により治療が必要な患者様にリーチしていくことで、順調に進捗している
- 今後もプロモーション活動を強化し継続的な成長を実現していく



EAP(Early Access Program)による収益は2022年度まで売上収益に含めず、2023年度以降は金額的に僅小になることから売上収益に含めている

KHK4083 / AMG 451(rocatinlimab)

2026年の承認取得を目指して残り7本のPh3試験を進行中

	開発ステータス			市場規模
アトピー性皮膚炎	1	2	Ph3	1兆円以上**
喘息	1	Ph2	開始	1兆円以上**
結節性痒疹*	1	2	Ph3	5,000億円以上 1兆円未満**

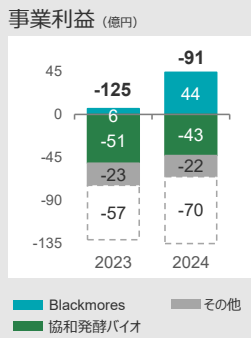
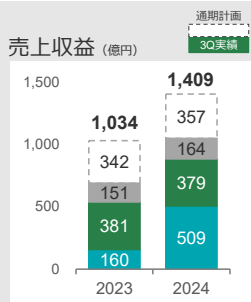
標的疾患	2024	2025	2026	+
中等度から重症のアトピー性皮膚炎	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3
	P3	P3	P3	P3

バイオ医薬品工場(米ノースカロライナ州)の建設に着工

- 今後の臨床試験用治験薬や上市品として、次世代抗体等の革新的バイオ医薬品を生産
- アンメットメディカルニーズの高い疾患を持つ患者様へいち早く価値をお届けるためにバイオ医薬品の開発・製造を加速化



- 続いて7ページです。
- 協和キリンについては、引き続きグローバル戦略品が堅調に推移し、着実な成長を継続しています。
- クリースビータは、継続的な投与が必要な薬であるため、上市しているエリア、そしてそこで治療を行う患者数が伸びることにより、引き続き、売上の伸びが期待できます。
- 臨床試験を行っているKHK4083については、先日1本目の試験結果が出ておりますが、進捗は予定通りであり、2026年の承認取得を目指して今後も進めていきます。



© Kirin Holdings Company, Limited

3Q実績と今後の取り組み

Blackmoresは、市場環境の変化もあるが、事業利益は計画達成に向けて取り組む。
KIRIN・FANCL・Blackmoresの3ブランドが展開する各エリアでのオーガニックな成長と付加価値創出を目指す。

3Q実績

来期以降の取り組み

Blackmores

BLACKMORES
| GROUP

豪州・NZ

BioCeuticalsの力強い成長や4月以降の値上げ等により増収を継続

東南アジア・韓国

全体では堅調に推移。ベトナムの粉ミルク事業も出荷再開後、売上は回復

中国

市場環境悪化に加え、一部のDistributorとの契約解除に伴い、足元の売上が一時的に減少

売上収益 (3Q実績 対前年)

豪州・NZ +4.6%
東南アジア・韓国 -8.2%
中国 +11.6%



FANCL

PLの実績取り込みは4Qから

- FANCL社の年初想定以上に小林製薬社紅麹問題の影響を大きく受けており、引き続き消費者の動向に注視していく

(キリングroup連結化前の業績)

4-9月 (億円)	24年実績	23年実績	前年比
売上高*	522	541	▲4%
営業利益*	47	61	▲22%



本年12月18日 (水)

Investor Day開催

ヘルスサイエンス事業の成長戦略などをテーマとした説明会を開催予定

テーマ

オープニング リマックス

- 1 ヘルスサイエンス 成長戦略
- 2 人財戦略
- 3 ESGアップデート

- 続いてヘルスサイエンス事業です。
- Blackmoresは、豪州や東南アジアでは想定通りに進捗している一方で、中国の売上成長が、市場環境の悪化などにより今までよりは鈍化しています。ただし、全体としては期央計画の事業利益を達成できる見込みです。
- FANCLの業績は4Qからの取り込みとなり、3QはBSのみの取り込みとなっております。
- 足元の業績は、FANCL社が公表していた期初計画で想定していた以上に紅麹問題の影響を受けていることや、短期的なプロモーションによって一時的な売上増を追わないことにしている影響もあることなどから、4-9月の実績は対前年で売上が-4%、営業利益で約2割の減少となっております。
- 4月から12月までの9か月間で見ると、対前年で15億円ほどの減益になると我々としては見込んでおりますが、キリングroup傘下でより成長が加速できるように一緒に取り組んでいきます。
- なお、今後、Kirin、FANCL、Blackmoresの3ブランドで展開していくヘルスサイエンス事業全体の成長戦略については12月18日に説明会を開催します。
- 引き続き、投資家の皆様などとの建設的な対話を通じて変革に取り組み、経済的価値・社会的価値を両立させていきます。
- 以上、第3四半期決算の進捗について、ご説明いたしました。

Environment

農業へのバイオ炭活用による脱炭素社会実現に向けた共同研究開始

- ▶ ビール大麦試験圃場の土壌にバイオ炭を活用することが環境再生型農業*に寄与するかの効果検証を行う共同研究を開始



ビール大麦試験圃場



バイオ炭（もみ殻くん炭）



詳細はこちら

フードロス削減・農家支援につながる氷結®mottainaiプロジェクト第2弾「キリン 氷結®mottainai ぼんかん（期間限定）」を新発売

- ▶ 第1弾「キリン 氷結®mottainai 浜なし」は「浜なし」約34,000個分のフードロス削減を実現



詳細はこちら

他企業と協同して「ボトルtoボトル」水平リサイクルを開始

- ▶ 遊園地「よみうりランド」で使用済みペットボトルを回収しペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」水平リサイクルの取り組みを開始



詳細はこちら

トラック荷積み・荷下ろし自動化に向けた共同実証を開始

- ▶ 2024年物流問題への対応加速に向け飲料倉庫での「ピッキング」「入出庫」「トラック荷積み・荷下ろし」を自律化・知能化



詳細はこちら

全国22都道府県23自治体で熱中症対策飲料として支持される「キリン 世界のKitchenからソルティライチ」を提供

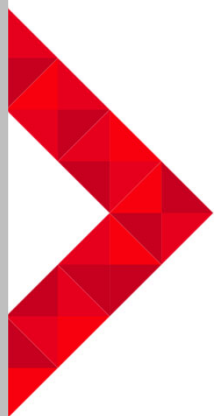
- ▶ 熱中症対策の取り組みとして、『熱中症予防声かけプロジェクト』を通じて応募いただいた全国22都道府県23自治体のクーリングシェルターにて配布



詳細はこちら

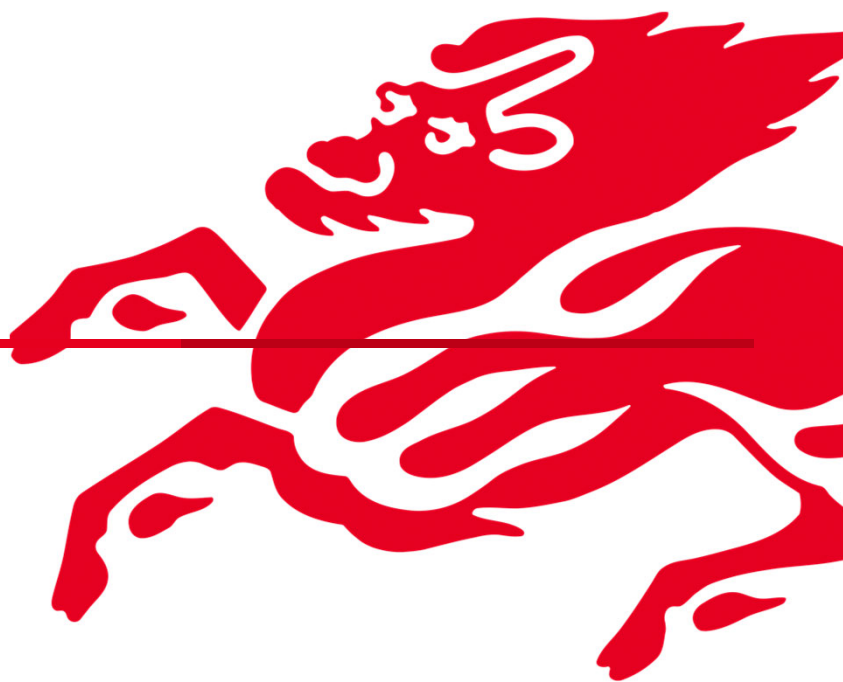
*農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用などによる環境負荷の軽減に寄与

© Kirin Holdings Company, Limited



資料編

Joy brings us together



(億円)		24年3Q実績	23年3Q実績
親会社の所有者に帰属する四半期利益	①	793	839
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	302	246
平準化 四半期利益	③ = ① + ②	1,094	1,086
期中平均株式数 (千株)	④	809,928	809,847
平準化EPS (円)	③ ÷ ④	135円	134円

2024年度 3Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		24年3Q実績	23年3Q実績	増減	%
連結 売上収益		16,997	15,479	1,518	9.8%
酒類		7,942	7,675	267	3.5%
	麒麟ビール	4,917	4,871	47	1.0%
	Lion	2,124	1,968	155	7.9%
	うち豪州・NZ	1,426	1,367	59	4.3%
	うち北米クラフト他	698	601	96	16.0%
	Four Roses	193	170	22	13.1%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	708	666	42	6.4%
飲料		4,221	3,864	357	9.3%
	麒麟パレージ	2,008	1,930	78	4.1%
	Coke Northeast	2,147	1,877	270	14.4%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	66	57	9	15.1%
医薬		3,626	3,058	568	18.6%
	協和麒麟	3,628	3,061	567	18.5%
	セグメント間取引消去	-2	-3	1	—
ヘルスサイエンス		1,051	692	359	51.9%
	Blackmores	509	160	349	218.5%
	協和発酵バイオ	379	381	-2	-0.6%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	164	151	12	8.0%
その他		156	190	-33	-17.6%

2024年度 3Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		24年3Q実績	23年3Q実績	増減	%
連結 事業利益		1,620	1,415	205	14.5%
酒類		837	840	-3	-0.4%
	麒麟ビール	525	562	-37	-6.6%
	Lion	177	169	8	4.8%
	うち豪州・NZ	118	104	14	13.1%
	うち北米クラフト他	59	65	-5	-8.5%
	Four Roses	75	71	3	4.7%
	その他	60	38	22	59.8%
飲料		507	427	80	18.7%
	麒麟ビバレッジ	153	149	4	2.7%
	Coke Northeast	342	265	77	28.9%
	その他	11	12	-1	-8.1%
医薬		709	589	119	20.3%
	協和麒麟	709	589	119	20.3%
ヘルスサイエンス		-20	-68	48	—
	Blackmores	44	6	39	677.9%
	協和発酵バイオ	-43	-51	9	—
	その他	-22	-23	1	—
その他		-2	-5	2	—
全社費用・セグメント間取引消去		-410	-368	-41	—

2024年度 3Q実績：キリンビール



(億円)	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	4,917	4,871	47	1.0%
酒税売上収益	2,985	2,946	39	1.3%
事業利益	525	562	-37	-6.6%

23年3Q 事業利益 (億円)		562	主な内容
対前年増減	酒類等 限界利益増	45	ビール類計 -39億 (ビール類減 -52千kl) ビール類以外計 27億 (RTD増 19千kl、ノンアル減 -1千kl) 他 価格改定・品種構成差異等 57億
	原材料費増	-50	市況の高騰等
	販売費増	-61	販売促進費増 -24億・広告費増 -37億 (計453億→514億)
	その他費用減	28	減価償却費減 他
	計	-37	
24年3Q 事業利益		525	

(千kl)	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
ビール類計*	—	—	-4.7%	-5.3%
RTD	328	309	6.1%	5.3%
ノンアルコール飲料	31	32	-3.9%	10.1%

* ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

一番搾りブランド計	270	263	2.5%	6.5%
スプリングバレーブランド計	11	15	-28.0%	6.5%
淡麗グリーンラベル	102	115	-11.4%	-16.4%**
本麒麟	131	157	-16.8%	-16.4%**
氷結ブランド計	222	209	6.2%	5.3%

* 2023年度からビールカテゴリーの開示はビール類のみとし、主力ブランドとチャネル別の明細を記載

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②）合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載

販売数量前年比	増減 %	市場
ビール類 業務用***	-2%	前年並み
ビール類 家庭用***	-5%	-7%

*** 業務用：壺・樽・PET商品計、家庭用：缶計

円ベース (億円)

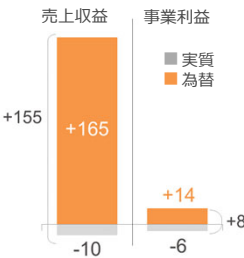
	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,124	1,968	155	7.9%
うち豪州・NZ	1,426	1,367	59	4.3%
うち北米クラフト他	698	601	96	16.0%
事業利益	177	169	8	4.8%
うち豪州・NZ	118	104	14	13.1%
うち北米クラフト他	59	65	-5	-8.5%

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

23年3Q 事業利益	113
豪州・NZ 数量	-28
その他*	33
24年3Q 事業利益	118

* 本社コストは、豪州・NZを含む
・ 対前年販売数量増減率は豪州・NZ・北米クラフト他で合計で-3%、豪州のみでは-4%

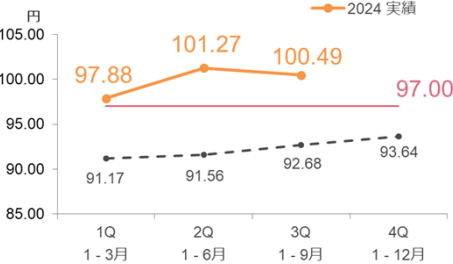
連結為替影響
2024年3Q実績 (億円)



豪ドルベース (million AUD)

	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,113	2,123	-10	-0.5%
うち豪州・NZ	1,418	1,474	-56	-3.8%
うち北米クラフト他	695	649	46	7.0%
事業利益	177	183	-6	-3.3%
うち豪州・NZ	118	113	5	4.3%
うち北米クラフト他	59	70	-11	-15.6%

AUD (オーストラリア・ドル)



2024年度 3Q実績：キリンビバレッジ



(億円)	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,008	1,930	78	4.1%
事業利益	153	149	4	2.7%

23年3Q 事業利益 (億円)		149	主な内容
対 前 年 増 減	清涼飲料限界利益増	15	販売数量増 763万ケース 36億 商品・容器構成差異等 -21億
	原材料費等増	-13	原料費増 -24億、材料費減 1億、 加工費減 10億
	販売費減	14	販売促進費減 11億、広告費減 3億 (計179億 → 165億)
	その他費用増	-12	
	計	4	
24年3Q 事業利益		153	

販売数量 (万ケース)		24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減
清涼飲料計		15,244	14,481	5.3%
ヘルスサイエンス飲料		1,776	1,845	-3.7%
うちプラズマ乳酸菌入り飲料		652	630	3.5%
缶		1,460	1,593	-8.3%
容 器 別	大型PET	4,433	3,893	13.9%
	小型PET	8,311	7,603	9.3%
その他		1,040	1,393	-25.3%

販売数量 (万ケース)		24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減
ブランド別	午後の紅茶	3,721	3,600	3.3%
	生茶	2,428	2,021	20.2%

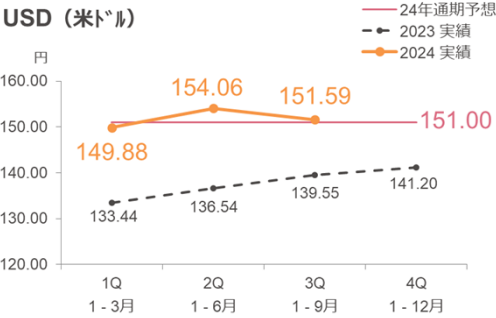
円ベース (億円)

	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	2,147	1,877	270	14.4%
事業利益	342	265	77	28.9%

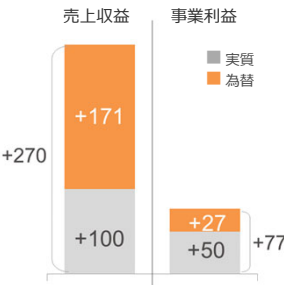
USDベース (million \$)

	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	1,416	1,345	72	5.3%
事業利益	226	190	36	18.7%

USD (米ドル)



連結為替影響
2024年3Q実績 (億円)



2024年度 3Q実績：協和キリン



(億円)	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益	3,628	3,061	567	18.5%
事業利益	709	589	119	20.3%

グローバル戦略品 売上収益 (億円)	Crysvita クリスピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	24年3Q	23年3Q	24年3Q	23年3Q
日本	82	74	14	14
北米	872	702	216	151
EMEA	371	245	60	48
APAC	23	11	1	—
合計	1,349	1,031	290	213

協和キリンの決算発表はこちら


<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>

協和キリンのR&D説明会はこちら


<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/events.html>

主要開発パイプライン（Ph2以降）：協和キリン

	開発中の疾患 ^{*1}	承認予定年 ^{*2}	開発ステータス	市場規模 ^{*3}	患者さんの数 ^{*4}
KHK4083/ AMG 451 rocatinlimab	中等度から重症の アトピー性皮膚炎	2026/2027	P3（グローバル）	★★★★★	16M
	結節性痒疹	TBD	P3（グローバル）	★★★★	1M
	中等度から重症の喘息	TBD	P2（グローバル）	★★★★★	13.5M
KHK4951 tivozanib	滲出型加齢黄斑変性	TBD	P2（日・米）	★★★★	2,600K
	糖尿病黄斑浮腫	TBD	P2（日・米）	★★★★	3,400K
OTL-203	Ⅱ型糖尿病 (Hurler症候群)	2029/2030	ビボタル試験 ^{*5} (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人 ^{*6}
OTL-201	Ⅲ型糖尿病 (Sanfilippo症候群A型)	TBD	POC試験 ^{*7}	★	生児出生の 10万人に1人以下

^{*1} 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。^{*2} 最初に承認が期待される年です。^{*3} 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1,000億円未満、★★★: 1,000億円以上-5,000億円未満、★★★★: 5,000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上^{*4} 協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。^{*5} P3試験相当。^{*6} 「10万人に1人」はMPS-IH全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。^{*7} P1/2試験相当。

協和キリンの最新の開発パイプライン一覧はこちら

https://www.kyowakirin.co.jp/research_development_production/pipeline/index.html



2024年度 3Q実績 : Blackmores



円ベース (億円)

	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
売上収益*	509	160	349	218.5%
豪州・NZ	228	-	-	-
東南アジア・韓国	122	-	-	-
中国	153	-	-	-
事業利益**	44	6	39	677.9%

・ Blackmores連結取り込み開始は23年3Qのため、2023年実績に1Q・2Qの実績は含まれない

豪ドルベース (million AUD)

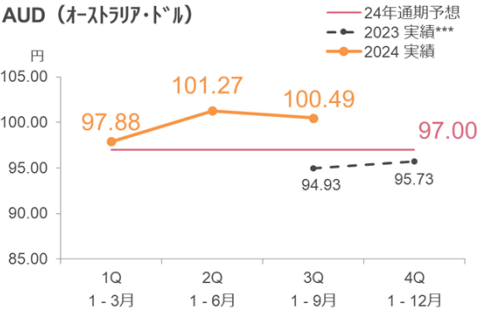
	24年 3 Q 実績	23年3Q 実績	増減	%
	507	168	338	200.9%
	227	-	-	-
	121	-	-	-
	153	-	-	-
	44	6	38	634.9%

[参考]

豪ドルベース (million AUD)

	24年3Q 実績	23年3Q 実績	%
売上収益*	507	488	3.8%
豪州・NZ	227	217	4.6%
東南アジア・韓国	121	132	-8.2%
中国	153	137	11.6%

AUD (オーストラリア・ドル)



* その他受託業務を含む合計

** PPA (Purchase Price Allocation) による無形資産等の償却費・一時コストを含む

*** 3Q:7-9月実績、4Q:7-12月実績

© Kirin Holdings Company, Limited

FANCL 連結取り込みに係る会計手続き

➤ TOB成立に伴い、既存の保有分と合わせてFANCL株式の約75%を保有し、連結子会社化

2024年

9/11

全体の2/3以上の
株式取得によりTOB成立

➤ 3QはBSのみ取り込む

11/7

3Q決算発表

➤ 2019年取得持分の簿価と今回の取得単価との差として、段階取得差損約180億円を認識

11/29

FANCL臨時株主総会
(株式併合決議)

12/20

株式併合効力発生日**

➤ 4QよりPLの実績を取り込む

2025年

2/14

4Q決算発表

➤ 無形資産償却費(暫定*)を計上

● 2024年 約10億円

※2024年には一時コスト約10億円も発生

● 2025年以降 約40億円

暫定PPAによるBS取込み概要

流動資産	負債
非流動資産	繰延税金負債
棚卸資産・有形固定資産 の公正価値評価による増額	取得価額 約2,550億円 -既存持分 約1,100億円 -追加取得 約1,450億円
無形資産 約2,100億円	
のれん 約790億円	非支配株主持分 600億円

* Purchase Price Allocationの確定に時間を要するため、現時点では暫定的な数値（1年以内に確定予定）

** 議決権は100%となるが、端数株式の処分の完了は2025年の3月を予定

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書



財政状態計算書

▶ **資産合計**：FANCLの連結子会社化に伴う有形固定資産、のれん、無形資産の増加等により前年度末に比べ3,929億円増加して3兆2,625億円となりました。

▶ **資本合計**：FANCLの連結子会社化に伴う非支配持分の増加及び為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加等により、前年度末に比べ855億円増加して1兆5,113億円となりました。

▶ **負債合計**：FANCLの連結子会社化に伴う繰延税金負債の増加、新規借入等による社債及び借入金の増加等により、前年度末に比べ3,074億円増加して1兆7,511億円となりました。

▶ **グロスDEレシオ**：親会社の所有者に帰属する持分が3%の増加となった一方で、有利子負債が36%増加したことから、前年度末から増加しました。

▶ **PBR**：期末株価終値の4%上昇に対し、親会社の所有者に帰属する持分も5%増加したことから、前年度末並みとなりました。

キャッシュ・フロー計算書

▶ **営業活動CF**：運転資金の流出は17億円減少、法人所得税の支払額は137億円増加しました。

▶ **投資活動CF**：有形固定資産及び無形資産の売却により73億円、持分法で会計処理されている投資の売却により35億円の収入がありました。一方、子会社株式の取得については1,598億円を支出、また有形固定資産及び無形資産の取得については、前年同期に比べ136億円増加の971億円を支出しました。

▶ **財務活動CF**：配当金の支払により727億円、長期借入金の返済により568億円の支出がありました。一方、短期借入金の増加により1,452億円、長期借入により1,034億円の収入がありました。

(億円)	24年3Q 実績	23年4Q 実績	増減
資産合計	32,625	28,696	3,929
資本合計	15,113	14,258	855
負債合計	17,511	14,437	3,074
ROIC*	—	8.0	—
グロスDEレシオ	0.76	0.58	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	1.79	—
PBR(株価純資産倍率)***	1.5	1.5	—

ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示

(億円)	24年3Q 実績	23年3Q 実績	増減
営業活動CF	1,786	1,280	506
投資活動CF	-2,595	-2,310	-285
フリーCF	-809	-1,030	221
財務活動CF	1,001	1,297	-296

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均)にて算出

** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。

*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く))にて算出

➤ キリンホールディングス
IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス
Investor's Guide*



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/guide/>

➤ キリンホールディングス
統合レポート



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/integrated/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

© Kirin Holdings Company, Limited

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together